

令和4年度 第1回瑞浪市化石博物館協議会 会議録

日 時：令和4年6月7日（火）11時20分～11時50分

会 場：瑞浪市化石博物館 別館研修室

出席者 <協議会委員> 大路 樹生（学識経験を有するもの）

松岡 敬二（学識経験を有するもの）

中山 京三（社会教育関係者）

吉田 尚子（学校教育関係者）

<事務局> 水野 義康（館長）・柄澤 宏明

欠席者 <協議会委員> 西尾 京子（家庭教育の向上に資する有するもの）

1 委嘱状交付

教育長代理として、館長より委嘱状を交付した。

2 あいさつ

館長より開催の挨拶があった（内容は略）。

3 会長選出

瑞浪市化石博物館の設置及び管理に関する条例第11条の6に基づき会長を選出した結果、松岡委員が会長を務めることとなった。

4 報告事項

令和3年度事業報告について

委 員：コロナ禍の中で館の活動に支障はなかったか。

事務局：コロナ禍の中で一部事業の縮小や中止をした。講座等の開催に当たっては、定員を減らして開催したものがある。市内、瑞浪中学校の出前事業は残念ながら中止した。野外調査は、鹿児島県甕島の調査は次年度に延期した。なお、緊急事態宣言下の臨時休館期間を逆に活用し、研究報告のバックナンバーのPDF化を進めた。現在、順次ホームページを通じ、PDF化した論文を公開している。

5 協議事項

令和4年度事業計画について

1) 普及活動の充実

委 員：3年度は、市内7小学校のうち3校が博物館を見学し、学芸員の指導の元、化石採集を体験した。「化石のまち瑞浪」と称している以上、子供たちに瑞浪の化石について知ってもらいたい。そのため、本年度は、市内7校で化石採集体験をカリキュラムに取り入れるよう働きかけたところ、実現することが可能となった。また、理科部会での研修にも取り入れる予定である。

会 長：幼少期に博物館を見学することは、自分の住む町に何があるか、また、町の歴史を知るきっかけとなるので是非とも続けていただきたい。

6 その他

①文化施設再編について

委 員：新博物館建設計画の進展はどのようなか。

事務局：現在は、教育委員会レベルで建設候補地の選定を行っていて、未だ具体的な計画を提示する段階にはない。

会 長：市の総合計画での位置づけと財源確保が、計画を実現する際の課題と、経験上捉えているので、とにかく頑張ってもらいたい。

②新聞報道のあった化石について

委 員：昨日（6月6日）の報道にあった化石は今後どうするのか。

事務局：化石は、パレオパラドキシアの骨盤、背骨、肋骨が関節した状態で残っており、頭骨等、体前半部も残っている可能性がある。この種の骨格がまとまって産出例は極めてまれである。6月5日はとりあえず、骨がむき出し状態であるため土嚢等で保護措置をとった。現在、化石の発掘の実施時期について調整中である。発掘後、化石のクリーニング作業を進めながら、並行して現地の地質や化石調査を行う必要があるため、事業計画、特に調査研究部門についてはテーマを変更するかもしれない。

委 員：名古屋大学の関係研究室は協力を惜しまない。他の研究機関の研究者の協力を得て研究を進め良い結果を出してほしい。